



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月13日

上場会社名 ホクト株式会社 上場取引所 東
コード番号 1379 URL <https://www.hokto-kinoko.co.jp>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）水野 雅義
問合せ先責任者 （役職名）取締役常務執行役員財務本部長 （氏名）中田 康平 TEL 026-259-5955
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期第3四半期	63,709	3.4	4,380	8.1	5,266	6.5	4,829	62.7
2025年3月期第3四半期	61,605	5.2	4,052	182.1	4,945	118.4	2,968	101.4

（注）包括利益 2026年3月期第3四半期 6,732百万円（122.6％） 2025年3月期第3四半期 3,024百万円（31.9％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	154.34	132.26
2025年3月期第3四半期	93.69	81.56

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年3月期第3四半期	115,084	62,062	53.9
2025年3月期	107,620	56,808	52.8

（参考）自己資本 2026年3月期第3四半期 62,062百万円 2025年3月期 56,808百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	10.00	—	40.00	50.00
2026年3月期	—	10.00	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	—	—	45.00	55.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	84,700	1.9	5,830	△12.0	6,280	△9.7	5,760	29.7	184.00

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年3月期3 Q	33,359,040株	2025年3月期	33,359,040株
2026年3月期3 Q	2,037,576株	2025年3月期	2,100,597株
2026年3月期3 Q	31,292,300株	2025年3月期3 Q	31,680,061株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善などを背景に、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、物価上昇の継続による個人消費への影響に加え、米国の関税政策や中国経済の低迷による景気の下振れリスクが懸念されるなど、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような経済環境の中、当社グループは、「きのこで健康を届けることを使命に市場と消費を拡大する」「利益の創出と企業の社会的責任を両立する」という経営ビジョンの下、健康食材である「きのこ」を事業の中心に据え、その研究開発、生産、販売を通してより多くの皆様へおいしさと健康をお届けできるよう事業活動を行ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高637億9百万円（前年同四半期比3.4%増）、営業利益43億80百万円（前年同四半期比8.1%増）、経常利益52億66百万円（同6.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益48億29百万円（同62.7%増）となりました。

なお、当第3四半期連結会計期間の主要きのこの生産量（連結ベース）は、ブナピーを含むブナシメジ34,820 t（同0.1%減）、エリンギ12,208 t（同3.7%減）、マイタケ11,752 t（同0.2%増）となりました。

当第3四半期連結累計期間の各セグメントの概況は次のとおりであります。

「国内きのこ事業」

生産部門におきましては、引き続きコスト削減に取り組むとともに、衛生管理をより徹底し、品質の向上と安定栽培に努め、安全・安心なきのこを生産してまいりました。なお、2024年10月に発生した火災により閉鎖していた上田第一きのこセンターは、2025年11月に復旧が完了し出荷を再開しております。

開発研究部門におきましては、商品品質の向上、付加価値の高い新商品や新品種の開発及びきのこの薬理効果や機能性の追求に取り組んでまいりました。

営業部門におきましては、きのこ需要を喚起すべく、健康・美容・スポーツを3本柱とした「きのこで菌活」を提唱し、鮮度に拘った営業活動を行ってまいりました。特に、新中期経営計画に掲げた、新規開拓、エリア戦略などを継続して推し進めるとともに、「プレミアムきのこ」と位置付ける当社の独自品種である霜降りひらたけについて、SNSを活用した認知向上や量販店舗でのプロモーションなどの施策を実施したこと等により、きのこの価格は堅調な動きとなりました。

以上の結果、国内きのこ事業全体の売上高は407億62百万円（前年同四半期比2.3%増）、セグメント利益は45億2百万円（同7.8%増）となりました。

「海外きのこ事業」

米国の現地法人「HOKTO KINOKO COMPANY」におきましては、主要顧客の一家において減少した発注量をカバーすべく新規顧客拡大に注力した結果、売上高は前年同四半期実績を上回りましたが、営業利益は下回りました。

台湾の現地法人「台湾北斗生技股份有限公司」におきましては、10月から12月にかけて安定した気候のもとで野菜の供給量が増加したことから野菜相場が下落基調となり、きのこの価格も軟調な動きとなった結果、売上高、営業利益ともに前年同四半期実績を若干下回って着地しました。

マレーシアの現地法人「HOKTO MALAYSIA SDN. BHD.」におきましては、ベトナム・タイ向けの販売が好調に推移しましたが、マレーシア・シンガポールでの低迷をカバーしきれず、売上高、営業利益ともに前年同四半期実績を下回りました。

以上の結果、海外きのこ事業全体の売上高は61億22百万円（同0.4%減）、セグメント利益は7億78百万円（同12.9%減）となりました。

「加工品事業」

加工品事業におきましては、きのこ加工品（水煮・冷凍）、調理加工品、業務用生鮮きのこの拡大に加え、新商品の開発と市場開拓に取り組んでまいりました結果、コンビニエンスストアおよびナショナルブランド（NB）メーカー向け販売では苦戦を強いられましたが、期初計画を大幅に上回る推移を見せた市販品のほか、外食部門とデリカ・中食向けの商材が好調に推移し、事業全体を牽引いたしました。通信販売では、乾燥きのこの販売が引き続き好調に推移し、レトルト食品もこれまでの状況から反転し成長軌道に乗りつつあります。健康食品の一部の商品では定期顧客数が大幅に伸び、業績に好影響を与え始めております。また、子会社の株式会社アーデンにおきましては、OEM事業で各得意先からの受注量が大きく伸び、特に冬物商品（鍋つゆの素）の受注が好調でした。これにより、上期の売上高と営業利益の計画未達分をカバーし、期初計画を大幅に超える結果となりました。

以上の結果、加工品事業の売上高は61億89百万円（同2.5%減）、セグメント利益は4億68百万円（同28.8%増）となりました。

「化成品事業」

化成品事業におきましては、包装資材分野では、リサイクル製品・バイオマス製品などの環境包材や冷凍食品向け包材・機器販売に取り組みました。工業資材分野では、半導体や精密機器など輸出関連メーカー向け販売が引き続き回復傾向を示したものの、内需型企業向けは苦戦が続きました。

農業資材分野では、第2四半期連結会計期間に大口設備案件を取り込んだほか、当第3四半期連結会計期間においてはきのこ相場が堅調であったことを背景に原料販売が堅調に推移いたしました。一方、自社製品の製造・販売は主要取引先の一部からの受注が減少したため、伸びが鈍化しました。

以上の結果、化成品事業の売上高は106億34百万円（同14.7%増）、セグメント利益は4億66百万円（同67.2%増）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は423億8百万円となり、前連結会計年度末より36億86百万円増加いたしました。これは主に、受取手形及び売掛金28億94百万円の増加によるものであります。固定資産は727億75百万円となり、前連結会計年度末より37億77百万円増加いたしました。これは主に、投資有価証券32億36百万円の増加によるものであります。

この結果、総資産は1,150億84百万円となり、前連結会計年度末より74億64百万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は273億62百万円となり、前連結会計年度末より25億39百万円増加いたしました。これは主に、短期借入金25億31百万円の増加によるものであります。固定負債は256億59百万円となり、前連結会計年度末より3億28百万円減少いたしました。

この結果、負債合計は530億22百万円となり、前連結会計年度末より22億10百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は620億62百万円となり、前連結会計年度末より52億53百万円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益48億29百万円を計上し配当金15億90百万円を支払ったことによる利益剰余金32億39百万円及びその他有価証券評価差額金14億46百万円の増加によるものであります。

この結果、自己資本比率は53.9%（前連結会計年度末は52.8%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2025年11月14日付「2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）」にて発表いたしました業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,323	18,623
受取手形及び売掛金	7,084	9,979
有価証券	6,989	4,881
商品及び製品	2,221	2,307
仕掛品	4,254	4,654
原材料及び貯蔵品	1,086	1,181
その他	668	686
貸倒引当金	△7	△5
流動資産合計	38,621	42,308
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	72,019	74,752
減価償却累計額	△39,164	△41,246
建物及び構築物（純額）	32,855	33,506
機械装置及び運搬具	70,088	72,774
減価償却累計額	△62,132	△64,660
機械装置及び運搬具（純額）	7,955	8,114
土地	14,581	14,655
その他	3,493	3,184
減価償却累計額	△2,089	△2,074
その他（純額）	1,404	1,109
有形固定資産合計	56,796	57,385
無形固定資産	136	102
投資その他の資産		
投資有価証券	8,374	11,611
退職給付に係る資産	1,773	1,824
その他	2,063	2,019
貸倒引当金	△146	△166
投資その他の資産合計	12,065	15,288
固定資産合計	68,998	72,775
資産合計	107,620	115,084

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,730	2,225
電子記録債務	4,087	3,725
短期借入金	7,097	9,628
未払法人税等	1,542	1,378
賞与引当金	1,288	668
火災損失引当金	147	—
その他	8,929	9,736
流動負債合計	24,823	27,362
固定負債		
新株予約権付社債	10,015	10,012
長期借入金	12,672	11,352
退職給付に係る負債	333	345
資産除去債務	1,035	1,068
その他	1,931	2,879
固定負債合計	25,988	25,659
負債合計	50,811	53,022
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,500	5,500
資本剰余金	5,727	5,727
利益剰余金	47,044	50,283
自己株式	△3,851	△3,739
株主資本合計	54,420	57,771
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,768	4,215
為替換算調整勘定	△732	△264
退職給付に係る調整累計額	352	340
その他の包括利益累計額合計	2,387	4,290
純資産合計	56,808	62,062
負債純資産合計	107,620	115,084

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	61,605	63,709
売上原価	44,751	46,086
売上総利益	16,854	17,622
販売費及び一般管理費	12,801	13,241
営業利益	4,052	4,380
営業外収益		
受取配当金	197	282
受取地代家賃	89	91
為替差益	582	462
助成金収入	31	31
その他	128	163
営業外収益合計	1,030	1,032
営業外費用		
支払利息	93	105
その他	44	40
営業外費用合計	137	146
経常利益	4,945	5,266
特別利益		
固定資産売却益	1	3
投資有価証券売却益	0	1
受取保険金	—	1,896
特別利益合計	2	1,901
特別損失		
固定資産売却損	2	0
固定資産除却損	0	0
火災損失	638	119
特別損失合計	640	119
税金等調整前四半期純利益	4,306	7,048
法人税、住民税及び事業税	1,107	1,862
法人税等調整額	231	356
法人税等合計	1,338	2,218
四半期純利益	2,968	4,829
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,968	4,829

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	2,968	4,829
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	182	1,446
為替換算調整勘定	△124	467
退職給付に係る調整額	△1	△12
その他の包括利益合計	56	1,902
四半期包括利益	3,024	6,732
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,024	6,732
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(追加情報)

(火災損失及び受取保険金について)

当第3四半期連結累計期間において、2024年10月29日に当社の上田第一きのこセンター（長野県上田市）にて発生した火災の復旧費用等119百万円を火災損失として特別損失に計上しております。また、同火災に係る確定保険金18億96百万円を受取保険金として特別利益に計上しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自2024年4月1日 至2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内きのこ事業	海外きのこ事業	加工品事業	化成品事業			
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	39,834	6,146	6,350	9,274	61,605	—	61,605
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	50	—	—	978	1,028	△1,028	—
計	39,884	6,146	6,350	10,252	62,633	△1,028	61,605
セグメント利益	4,174	893	363	279	5,711	△1,658	4,052

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,658百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,662百万円およびセグメント間取引消去3百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自2025年4月1日 至2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内きのこ事業	海外きのこ事業	加工品事業	化成品事業			
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	40,762	6,122	6,189	10,634	63,709	—	63,709
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	83	—	—	1,039	1,123	△1,123	—
計	40,845	6,122	6,189	11,673	64,832	△1,123	63,709
セグメント利益	4,502	778	468	466	6,216	△1,835	4,380

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,835百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,847百万円およびセグメント間取引消去12百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	4,210百万円	3,868百万円